

## リスクマネジメント経営の実践！

### 第11回 エジプト政権崩壊から見る、ソーシャルネットの活用

エジプトをはじめ、イスラム社会で大規模なデモが起こっています。エジプトでは、ムバラク政権が崩壊に追い込まれるような事態まで発展しています。

その、手助け、後押しとなったのが、フェイスブックなどの、ソーシャルネットと言われています。ネットワーク社会、情報社会の世界のリーダー、フェイスブックは政権まで倒してしまうエネルギーを持っていることが証明されました。

さて、ビジネスですが、このSNSの代表格、フェイスブック、なんと世界6億人が参加する出会い系サイトになってしまいました。

先日、ある電力会社で研修を行ったとき、「皆さんは、子供たちの出会い系サイトへの参加は絶対反対ですか」と聞いてみました。ほとんどの方が反対でした。そこで、パソコンでフェイスブックを見せてあげました。

音楽大学卒業で美人、名前も顔も住んでいる場所、メールアドレスも書かれています。それを見た講座参加者のお父さんたち、これだったらいいかもしれないと賛成してくれました。

つまり、出会い系サイトというと、いやらしいイメージを持って、そのサイトも見てもないのに勝手に反対という結論を導き出すお父さんたち。私は言いました。親が中身を見てから、賛成か反対かを言ってください。自分が持っている固定観念でダメと決めてしまうのはやめましょう、と。これは、企業経営でも同じことがいえるように思います。若い社員たちに、「社長、営業の時代ではないのではないのでしょうか？ SNSを使った、マーケティングをやしましょう」と言われた社長さん、「何だそれ？ マーケティング？ そんな横文字を

並べてないで、1件でも飛び込みしてこい。できない奴ほど、横文字を使いたがる。今の若者は根性がない」

昨年夏、気温38度の中、大卒の証券マンが当社に営業に来ました。一流企業です。「何社飛び込みするの？」と聞いたら、100社とか。「契約とれた？」「いいえ」「君はどここの大学を卒業？」「はい、同志社大学です」「そうか、君のところの上司はアホだな」「そうですか？」「だって、同志社大学の人間に、頭を使わせないで、足を使わせるんだな。何人新入社員いるの？」「はい、300人です」「みな同じように飛び込みするの？」「はい」おそろしい無駄をしていますね。一流の大学の卒業生300人に、契約にならない飛び込みをさせています。

どうして、こんな無駄をさせるのか？つまり、この会社の役員、管理職は自分たちがやってきたことが成功モデルだと勘違いしています。彼らが育った時代は、プラス成長だったのです。プラス成長は個人も企業も余裕がありますので、証券会社に預ける余裕資金は生まれます。しかし、今はマイナス成長なのです。マイナス成長は貯金がたまるどころか、貯蓄を削って生きているのです。そうした時代に、気温38度の中、300人を歩かせる、この国の間違いを見たような思いでした。

政治、行政、経済界、皆さん昔の成功パターンを信じている。とんでもない間違いです。

もう一度、この国を考えてみてください。そして、一番コストのかからない手法を考えてみてください。その時に注目していただきたいのが、ソーシャルネットです。

# 時流を読む

リスクに対する感性が高まれば、自ずと時代の「先」を読む力が備わってきます。最新ニュースをリスクマネジメントの視点で分析し、今後の展開や社会への影響を予想してみましょう。

## 食料高、世界経済かく乱 ～需要増と天候不順背景に 新興国でインフレ懸念 消費回復足かせの恐れ

小麦、トウモロコシなどの穀物が騰勢を強めている。中国などの新興国での需要が増す一方、ロシアや南米の干ばつ、オーストラリアの洪水などの、天候不順に伴う被害が重なって生産量が細り、需給バランスが崩れているためだ。

シカゴ市場の先物取引で、主要穀物は軒並み上昇し、大豆、トウモロコシなどが、高値となり、2008年秋の金融危機を前にした高騰局面に迫った。

新興国への影響は大きく、トウガラシ、食料油、野菜などが高騰している。インドでは、カレーに欠かせない玉ねぎがこの半年で数倍になった。

さて、こうした穀物、野菜の高騰を受け、日本の農業にチャンスが来たとは言えないだろうか？TPPの流通再編に合わせ、日本の農業は危機を迎えるのではないかといわれているが、この高騰により、世界に通用する価格の農産品を作る可能性が出てきた。

以前、紹介したJFE、鉄メーカーが農業分野に参入し、28期作を実現したとか。食料自給率40%の日本、一気に食料自給率を100%に回復し、さらには輸出できるだけの体制を今こそ作れる時と、ここをチャンスに変えてほしい。

## 「世界2位」の先にあるリスク

日本を抜いてGDP世界2位に躍進した中国。市場の一部には中国経済がどこで急減速するのか、そのリスクに備える動きがある。

グリーンスパン米連邦準備理事会前議長が、中国は農村から都市への労働移動率がピークを超えれば、インフレ圧力が顕在化すると予言した。JPモルガン証券北野一氏によると「今の賃金上昇はその時期に近づいていることを意味していることを示す」

「世界経済はアイドルが生まれては消える」1980年代の日本、90年代の 아일랜드、2000年代の米国。経済の強さの裏には必ずひずみ生まれ、永遠には持続しない。高成長を支える生産年齢人口はあと5年でピークアウト。輸出から内需主導の成長に向けた転換に使える時間はそう長くない。

## 若い男性、やはり草食化～厚労省調査 16～19歳、セックス無関心倍増

セックスに無関心だったり、嫌悪感を持ったりしている16歳から19歳の男性の割合が2年前より倍増し、3分の1を占めるようになった。また、セックスレス夫婦も40%を超えた。

16～19歳の男性でセックスに「関心がない」「嫌悪している」との回答は合計で、35.1%。08年の前回調査は17.5%でほぼ倍増した。20歳から24歳でも11.8%から21.5%へ増加した。結婚している人のうち、過去1カ月間性交渉がなかったと答えた夫婦は40.8%、04年の調査では31.9%、前回は36.5%で増加が続いている。

セックスに積極的になれない理由として、「出産後になんとなく」「面倒くさい」「仕事で疲れている」などが多かった。

北村邦夫・日本家族計画協会クリニック所長は「若い男性の草食化が裏付けられた。少子化に繋がる問題なので、対策が必要だ」と発言。

日本もこうした背景から、根本的な少子高齢化対策に取り組む必要があるのは間違いない。外国人を積極的に受け入れるのか、一夫多妻、一妻多夫を考えるのか。早めの対応に期待したいものだ。

本コーナーは、(株)日本アルマック/日本リスクマネジメント・プロフェッショナル協会共催セミナー「全国リスクマネジメント研究会」の内容を編集したもので、日経新聞の記事によるものです。セミナーの概要、参加申込方法等については、お気軽にお問い合わせください。

### <発行>

日本リスクマネジメント・プロフェッショナル協会

〒101-0038

東京都千代田区神田美倉町10共同ビル2F 27号

(株)日本アルマック内

TEL:03-5297-1242 FAX:03-5297-1244

URL:http://www.almac.co.jp

### <製作>

株式会社日本アルマック

〒101-0038

東京都千代田区神田美倉町10共同ビル2F 27号

TEL:03-5297-1241 FAX:03-5297-1244

URL:http://www.almac.co.jp

※ご意見・ご要望は上記までお寄せください。